

平成28年度 あきたスマートカレッジ (報告)

D連携講座

D1～8：明快！アートゼミ

**連携機関：秋田市立千秋美術館
県立近代美術館
県立美術館**

会場：秋田県生涯学習センター4階 第1研修室 ほか

【趣旨】アートを身近に感じ、親しむための学習講座です。各美術館職員がそれぞれの展示作品について紹介・解説します。

講座記号	期 日	テーマ	講 師	参加者数
D 1	5月12日 (木)	千秋美術館企画展 「もうひとつの輝き 最後の印象派 1900-20's Paris」	秋田市立千秋美術館 学芸員 米山 茉未 氏	33
D 2	5月26日 (木)	おもしろ浮世絵「遊び絵」の世界 ～江戸のユーモアを楽しむ～	秋田県立近代美術館 学芸班 学芸主事 鈴木 京 氏	36
D 3	7月15日 (金)	写実絵画を見る ～ホキ美術館所蔵作品を中心に～	秋田県立近代美術館 学芸班 学芸主事 保 泉 充 氏	25
D 4	7月22日 (金)	千秋美術館企画展 「勇壮・優美・遊楽 一江戸時代の男と女」	秋田市立千秋美術館 学芸員 村 田 梨 沙 氏	27
D 5	9月30日 (金)	千秋美術館企画展 「生誕150年記念 寺崎廣業展」	秋田市立千秋美術館 学芸員 松 尾 ゆ か 氏	40
D 6	10月14日 (金)	「幻の画家・橘小夢とその時代」	秋田県立近代美術館 学芸班 学芸主事 奈 良 香 氏	37
D 7	12月 7日 (水)	[講演]「藤田嗣治 無限に深い線 について語る」	秋田県立美術館 学芸員 佐々木 佳苗 氏	44
D 8	12月14日 (水)	[現地学習]「藤田嗣治 無限に深い線 を鑑賞する」		27
合計				269名

今年度の特別展・コレクション展についての概要をお話いただきました。
ここでは、6回目の講座について報告します。



橘小夢「刺青」大正12年
30.0×18.0cm 個人蔵

橘小夢は6歳の時に母親を失い、六郷の諏訪神社に預けられました。諏訪神社の社殿隣りには湧き水があり、小夢が預けられた頃は現在よりもうっそうと木があり、幻想的な雰囲気にもまれていた、と伝えられています。初めは竹久夢二などの影響もあり、夢二のような女性を描いていたのですが、六郷での体験が原体験となっていて、後にピアズレーの影響を受けて妖艶な絵を描くようになったのではないかと評されています。江戸川乱歩は、小夢の挿絵について『日本の物語をピアズレー風に描いた』と評しています。

小夢は学校を卒業後、中央画壇で活躍するというよりも、当時の小説家や出版社の編集人に気に入られ、雑誌の表紙絵(現在は写真が中心だが、彼の活躍した明治末から昭和初期は雑誌の表紙は『絵』であった)や挿絵画家として活躍していました。では、大きな日本画を書かなかったかといえばそんな事はなく、屏風絵など優れた作品も残しています。ただ多くのそれが個人蔵となっていて、世に出て来なただけでした。「関東大震災で出版予定であった画集も出版できなくなったり、火災で原画が焼失したりと、結果的に『幻の画家』になってしまったのです」という説明には、思わず神妙な気持ちにならずにはいられませんでした。今回の展示についての光明は、大正8年(1919年)に湯沢で小夢の絵の頒布会が開催されており、その売り先の記録が残されていたことにありました。その記録をもとに秋田県内外の所有者探しを行い、「秋田県内での展示だからと、借用展示できた作品も多い」とのことでした。「そのため、今回限りの展示公開となるものもあるかもしれない」という奈良先生の言葉を聞き、「絶対見に行きたい」と思った参加者もいたようです。